

KOMAZAWA × TUKUBA

筑波大ゴール前でコーナーキックからゴールを狙う赤嶺と原(右から二人目) この日も両フォワードが得点し、攻撃陣の激しいポジション争いはチーム力向上に好影響を与えている
(撮影・内田浩嗣)



第27回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント2回戦

駒澤大学3-0筑波大学

赤嶺が1得点1アシストの活躍！ 激しいプレスで始終筑波大を圧倒

選手の自主ミーティングが生んだ好結果

初戦とはまったく別のチームがそこにいた。

総理大臣杯2回戦の相手は、宿敵・筑波大。昨年の関東リーグ戦では、圧倒的な優勝争いを演じ、今期もここまで2度対戦し1勝1敗。2回戦には相応しくない好カードが早くも実現した。しかし結果は、駒大の完勝という意外なものとなった。

苦戦が予想された。それは筑波大の戦力云々ということ以上に、駒大の初戦の出来があまりよくなかったから。危機感をもった選手たちは、初戦の終了後、自主的にミーティングを開いたという。そこでは戦術事項の確認のほか、「暑い中で最後までがんばれるチームが勝つんだ」という気持ちの面の再確認が行われた。

チームは息を吹き返した。
前半2分、1回戦では出場機会なかった赤嶺がオープニングシュートを放つ。同8分、原のヘッドに反応した赤嶺が抜け出しゴールキーパーとの一対一を迎えたが、シュートはキーパーにセーブされた。「チャントスをクリックした監督の期待に応えたい」と燃える男が、積極的な動きでチームを牽引した。

駒大は全員が高い集中力でプレスをかけ続け、筑波大に自由を与えず試合を支配。前半にゴールは生まれなかったが、十分に期待できる内容で後半を迎えた。

その後半、待望の先制点が生まれた。14分、中央混戦から赤嶺が原へボールを送り、その原が無人のゴールへ左足で蹴り込んだ。同18分には、中央の橋本から右サイドの中田へボールが渡り、ニアヘセントリング。それに飛び込んだ赤嶺が左足で逆サイドのゴールネットへ突き刺し、追加点。中田さんにニアに来いと言われていた「(赤嶺)という、対話が生んだすばらしいゴールだった。

このゴールで完全に勢いに乗った駒大は、その後も原や中田が何度も筑波大ゴールに襲いかかる。そして最後まで攻撃の手を緩めない駒大はロスタイムに、初出場の根本がループシユ